

# 街場の就活論 vol.7

～新卒採用に今何が起きているのか～

## 親子の会話が持つ影響力

仕事で乙武さんと会いました。そして色々話す中で「障害者を見る眼」の話になりました。当然のことですが、乙武さんは街を歩いていると「ジロジロ」と見られます。五体不満足で世間に知られるようになるはるか前から「ジロジロ」と見られます。当然です。どちらかという、見ない方が、不自然です。「ジロジロ」「ジロジロ」。乙武さんから言わせると「いつものこと」だそうです。



ただ、本当に「ジロジロ」見るのは実は子どもたちで、大人たちは「チラチラ」見るのだといいます。さらに子どもたちは、「なんであの人、手も足もないの～？」と大きな声で周囲に尋ねるそうです。このような場面に遭遇したら、あなたはどうか対応しますか？

一番多い反応は「こら！そんなに人をジロジロ見るものではありません」「すみません、許してね

と双方に声をかけ去りゆくパターンだと言います。確かに、一般的に他人を「ジロジロ」見るのは礼儀がいいとは言えないことかもしれません。ただ、その度に乙武さんは「あー、せっかく障害者のことを知ってもらうチャンスだったのに…」と残念に思うそうです。「手と足がない人が妙な機械に乗って動いていたら、『なんだ!?!』って思うのが当然の反応なのにね」と笑っていました。

学生と進路の話をしていると、同じような感覚に陥ることがあります。それは学生の話ではなく、保護者の反応に対してです。例えば「僕は就職することも意味もよくわからないし、専門学校にでも行こうと思っている」というような学生がいた場合（結構います）。保護者の反応は「何を甘いコト言ってるの！そんなお金うちにはない！通うんなら自分で稼いで通いや！」と断ち切るか、「将来なりたいものに近づけるなら、まあ出せるうちは支援しよう」と受け入れるかどちらかが多いようです。

その回答を持って「親はこう言っているのですが」と僕のもとに相談に来られたりします。これは、「障害」が「礼儀」の話に置き換わったのと同じで、「進路」の話が「お金」の話に置き換わっています。

大学3年生になるまで手とお金をかけて育て上げて、ようやく「進路」や「社会」のことに少し興味を持ち始めた矢先。将来のコト、社会人として生きてきた自身のコト、我が子への願い・想い、誇れることばかりではないかもしれませんが、そんなことを語るにようやくやってきたチャンス！、なのにここで「進路」の話をできない保護者が多いと思うのです。

結論は本人が出さないといけないし、結果も本人が受け入れないといけないことですが、そのきっかけを保護者がつくることはできます。せっかく「進路」や「キャリア」の話をしたがついていないのに、どうして一般的で大して中身の無いアドバイスに置き換えてしまうのか、もったいなくて仕方ありません。



もちろんすべての保護者がそうだとは思いませんし、もしかしたらほんの一部のそんな親を持つ学生と、僕が触れ合う機会がたまたま多いだけかもしれません。ただ、実感としてはそうなのです。

思えば団家では「20歳になったら父親と二人で海外旅行をする」というルールがありました。子どもにとっては、面倒な親父との会話をそこそこにスルーできれば、親持ちで好きな国に連れて

行ってもらえるのですから「ラッキー」な旅ですが、親の意図はそういうところにあったのかもしれないと、思います。

## とある文具屋さんのハナシ

ある雑誌の中で、私もよく知る、小さな街の文具屋さんのオーナーが、こんなことを言っていました。

「文具はとにかく細かいものが多いのですが、雑に入れてもきれいに見えるように、側（がわ）をきちんと作っておくのが大事です。だから店を開くときには、何回も打ち合わせをしました」

実際に店に行くと、確かに個別にはバラバラなものが入っているのですが、全体は整然としています。美しい趣のあるお店です。100円のものも、200円で売れてしまいそうなお店です。これを見て、キャリアも同じだなと思いました。

人生というほど大きな括りではなく、例えば「仕事」だけにフォーカスしても、本当に様々なことが起こります。そして、日常は個人に気遣いをすることなく、猛スピードで過ぎ去っていきます。社会の中で生きていくということは、このスピードにある程度歩調を合わせることだと思えます。エスカレーターで止まろうが歩こうが自由ですが「それでも前に進んでいく」という事実だけは動かしようがありません。

そして年月が経ち、ふと足跡を振り返った時に、自身のキャリアという箱に何が入っているか、それは、到達してみないと、はっきりとは分からないものだと思います。もちろん「あんな仕事がしたい」「こんなスキルを身に付けたい」と思いを馳

せ、それに向かって突き進むのが理想的ですが、その希望がすべて叶うことはありません。だからこそ、最初に「側をきちんと作っておく」ことが大事だと思います。



キャリア教育の本質は、ここにあると思います。例えば文具屋さんの「側」を例えに続けると、その中に何が入るのか「開店してみないとわからない」という前提があります。だからこそ「たぶんこのくらいのサイズのモノが入るだろう」と何回も考え、話し合い、側を作っていきます。そして、結果的によくできた「側」は、どんな仕入れにも臨機応変に向き合える「側」になっています。

キャリアに置き換えると「この先、どんな風になれそうか、なりたいか」。これを考えることが、文具屋が「側」を考えることと同じだと思います。そして、そこそこの「側」を作っておけば、紆余曲折の中で過ぎ行く「仕事」と、それで身につくキャリアの数々が、振り返れば整理された何かにつながっていくと思います。

ただ、偏差値教育で育ってきた学生たちに、これを「体感」させるのは、なかなか難しいことでもあります。明確な目標がないと、動くことが

できません。甲子園を目指せ！と言われれば、素振り 1,000 回も苦にならなかった人が、就職活動時期に、何から手をつけていいかわからなくなり、立ち止まってしまいます。

そんな凝り固まった頭を打破する例として、幼稚園や保育園の砂場の話をすることがあります。子どもたちは、砂場を前にして「遊び方がわからない」とは言いません。何を作ればいいかわからないから動けないとは言いません。まれに保護者の影響か「手が汚れるのが嫌だ」と敬遠する子はいますが、砂場を前に立ちすくむ子供を見たら、あなたはどんな風に思いますか？ 学生に聞かけると「それはちょっと可哀そうな子どもだ」と思うようです。その姿が「今のあなたたちに被ります」という呼びかけに、反応できる子は、そこからスタートです。

## 「プリズム」

百田尚樹さんという方が書いた「プリズム」という本を読んでいました。この中に、こんなくだりが出てきます。家庭教師をする 32 歳の女性と、小学校 5 年生の生徒の会話です。

「将来は何になりたいの？」

「みんなそれ聞くね。親戚のおじさんとか、パパの会社の人とか、僕に会うとたいていの人が聞いてくる。大人はどうしていつも子供にそんなことを聞くのかなあ」

「修一君はどう思うの？」

「——。なりたいものに、自分がなれなかったからじゃないかな」

僕はこれを見て、一瞬「そうかもな、うまいこと言うな」と思いました。小説の一節ですから、

それを取り上げてどうこう言うのもおかしな話かもしれませんが、しかしその後「いや、待てよ。どちらかといえば、上手く行った人が体験から来るアドバイスと言う話だ」と思いました。

「将来どうなりたい?」「夢は何?」は、気付きを与える投げ掛けとしては、それほど強いパワーを持つ言葉ではないかもしれませんが。「どうやって飯を食うのだ?」「結婚はいつしたい?」「老後は?」、こんな質問の方が、アクションに落としやすいのも事実でしょう。保険会社の営業の王道ですネ。

でもやはり、僕は「将来」に夢を馳せて考え続けることが、人間の動力になる気がしてなりません。そして、世の中で言う成功を成し遂げた人や、自分の人生を謳歌したと胸を張って亡くなっていく先輩たちは、その動力が「まだ見ぬ自身の可能性への追及」つまり「夢を見る力」だったように思います。だからきっと、「将来どうなりたい?」「夢は何?」と、聞き続けるのではないかと思います。

答えが返ってくることを期待しているわけではありません。その質問をすることが大切だとわかっている人が、投げ掛ける質問。それがこれらの質問ではないかと僕は思います。だからこの質問に「答え」を求めてはいけないのではないかと。質問をすることがメッセージに他ならないと思うからです。ところが、大して話に身がない人ほど「夢はもっと具体的に!」などと叫び、答えを出させようとする傾向があるように思います。

ある幼稚園の園長から話を聞いて以来、僕は自分の子どもにできるだけ「どうして?」と聞くようにしています。「カエルはどうして緑なの?」「月はどうして丸いの?」「お母さんはどうして女の人しかねれないの?」。子どもは、正解とは程遠い回答を、小さな頭で考えて投げてきます。そのときの僕の答えはただひとつ。「なるほど。そうかもしれへんな」。この不思議の連続が、将来の学ぶ気持ちを育むのだと、教えられました。

小学校にあがって、ある日「あっ!幼稚園で園長先生に聞かれたどうして?の答えがこれだった!」と気付く日が来ます。その発見と気付きが、学ぶ楽しさの土壌になるのだと言います。公式を教えて100点を取らせるよりも、0点でも学ぶ楽しさを教えた方が、何十倍もその子の人生は豊かになる。これは「魚を買い与えた恩は食べればなくなるが、魚の捕り方を教えた恩は一生忘れない」という中国の故事にも通じます。

「夢はなに?」「将来どうなりたい?」。この質問には、これと同じようなモノが含まれている気がします。

